

第 89 回アカデミー賞®外国語映画賞イタリア代表・ドキュメンタリー賞候補  
第 66 回ベルリン国際映画祭 金熊賞(グランプリ)

ジャンフランコ・ロージ監督 (『ローマ環状線、めぐりゆく人生たち』) 最新作

# 海は燃えている

イタリア最南端の小さな島

特別試写会付きシンポジウムのお知らせ

ジャンフランコ・ロージ監督、学生とともに難民・移民問題を語る



前作『ローマ環状線、めぐりゆく人生たち』でドキュメンタリー作品初のヴェネチア国際映画祭金獅子賞(最高賞)を受賞、本作『海は燃えている～イタリア最南端の小さな島～』でもドキュメンタリー作品初のベルリン国際映画祭で最高賞である金熊賞を獲得、と快挙を連発しているジャンフランコ・ロージ監督。

監督が来日するこの機会に、立教大学教授であり、難民問題に深い造詣を持つ作家の小野正嗣氏を司会に、UNHCR駐日事務所広報官・守屋由紀氏をモデレーターに迎え、難民・移民の方々と共に生きるこの世界について、本作の舞台ランペドゥーサ島が直面している現実、日本に暮らす難民の方々の生活、日本とランペドゥーサ島に差はあるのか?など、難民を助ける会の理事長であり、紛争下の緊急人道支援を積極的に行ってきた長有紀枝先生と学生のみなさんを交えて、特別試写会付きシンポジウムを開催致します。来年2月11日に公開する本作を事前に鑑賞できるチャンスです。ぜひ、ご参加下さい。

『海は燃えている～イタリア最南端の小さな島～』特別上映付きシンポジウム  
「ジャンフランコ・ロージ監督、学生とともに難民・移民問題を語る」

2017年1月20(金)18:30 開場 18:45 開映 シンポジウム 20:45～21:30(予定)

場所:立教大学 14号館 D301 (豊島区西池袋 3-34-1)

登壇予定者:ジャンフランコ・ロージ監督、長有紀枝氏(難民を助ける会理事長/立教大学社会学部 21 世紀社会デザイン研究科教授)、川口航さん(立教大学/学生団体「Re:Free」:難民問題について同世代に伝える活動)、渡部清花さん(東京大学/「WELgee」:難民ホームステイなどの難民受け入れ事業を展開)、久保田徹さん(慶応大学/国際問題を伝える学生団体「SAL」にてロヒンギャ難民のドキュメンタリーを製作)

モデレーター:守屋由紀氏(UNHCR) 司会:小野正嗣氏(作家/立教大学教授)

主催:立教大学文学部文学科文芸・思想専修

協力:国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所

<応募方法>立教大学学生は学生証持参のうえ、直接会場へお越しください。(先着 100 名)

一般の方(※抽選):[umi@bitters.co.jp](mailto:umi@bitters.co.jp)へ、以下を明記の上ご応募ください。

氏名/年齢/職業/住所/緊急連絡先電話番号/メールアドレス ※応募締め切り<1/16(月)>まで。

※携帯電話の場合「bitters.co.jp」を受信可能な状態にしてください。当選の方にご案内メールを送らせて頂きます。

## STORY

イタリア最南端の小さな島、ランペドゥーサ島。12歳の少年サムエレは友だちと手作りのパチンコで遊び、島の人々はどこにでもある日々を生きている。しかし、この島にはもうひとつの顔がある。アフリカや中東から命をかけて地中海を渡り、ヨーロッパを目指す多くの難民・移民の玄関口なのだ。ひとつの島を通して、世界が見えてくる——温かくも冷静な眼差しで世界を見据える、静かな衝撃のドキュメンタリー、日本公開!

監督:ジャンフランコ・ロージ(『ローマ環状線、めぐりゆく人生たち』) 2016年/イタリア=フランス/114分

後援:イタリア大使館、イタリア文化センター 協力:国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所

配給:ビターズ・エンド ©21Unoproductions\_Stemalertainment\_LesFilmsdlci\_ArteFranceCine [www.bitters.co.jp/umi](http://www.bitters.co.jp/umi)

2/11(土・祝)より、Bunkamura ル・シネマほか全国順次ロードショー!